

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4291100016		
法人名	株式会社ケアサービス・久		
事業所名	グループホーム夕陽の丘		
所在地	長崎県西彼杵郡長与町岡郷1669番地1		
自己評価作成日	平成27年11月17日	評価結果市町村受理日	平成28年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成27年12月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一日の食材20品目の提供や、裏庭菜園での野菜作りや収穫作業を共にしている。日常生活では、昔の映像や音楽を、CDやDVD、インターネットにて流している。外出に対し中々腰の重い利用者様を、季節の行事(花見・ぶどう狩り・コスモス見物・紅葉狩り・足湯)にてお出掛けしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

眼下に、大村湾を一望できる丘の上にある事業所である。リビングには明るい日差しが降り注ぎ、利用者はソファでゆっくりと寛ぎ、歌を歌って楽しんでおり、理念である「ゆっくり、ゆったり」と過ごしている姿そのままである。日頃から、家族への連絡や報告を密に行っており、家族からの信頼が厚い。また、家族会を年に数回開催しており、家族の要望や意見を聞き取る機会であり、家族との良好な関係を構築している。また、事業所は外出支援に力を入れており、車椅子利用の利用者も一緒に花見、ドライブ、サーカス見学等、機会を見つけては出掛けており、理念である「利用者中心の暮らし」を具現化している。特に、災害対策では、落雷により貯水タンクの損傷を受け、貯水タンク前のパイプに蛇口を設け、停電時にも給水できるように敏速に対応している点は高く評価できるものである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

グループホーム夕陽の丘
自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目につく場所に理念を掲げており、実践につなげている	理念は、玄関や事務所内の目に付く箇所に掲示している。理念にある「利用者中心の介護」「ゆっくり、ゆったりと目を見つめて話す」を実践するために、利用者をせかささない事、利用者が何をしたいかを常に考える事を念頭に置き、快適な生活が送れるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(ちびっこ相撲大会・ペーロン大会・地域花壇植栽)等に参加させてもらっている。また、ご近所を散歩する際は声掛け挨拶を交わし、利用者の顔を少しでも覚えて頂けるように心がけている	事業所は地域の相撲大会やペーロン大会などに協賛参加しており、利用者と共に見学に出掛けたり、地域花壇の苗植えにも参加している。散歩中に近隣住民と挨拶を交わしている。また、七夕には近隣に短冊を配り、子どもたちが持ってきて飾るなど交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かしている	年6回、利用者家族、民生委員、地域住民、町職員等と会議を実施している。近況報告の他、災害対策や、感染症対策について活発な話し合いが行われている。ボランティア受入れや地元消防団の訓練参加呼びかけ等、委員からのアドバイスで実行された事例がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域の連絡会に所属しており、必要な事項内容の際は参加している	日頃から役所の職員には、気軽に立ち寄って欲しいと伝えている。介護保険の認定更新の手続きや分からない事があれば、行政担当課に尋ねている。身体拘束についての認識確認や設備等の整備についても相談に乗ってもらっている。また、行政から案内がある研修に職員は参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる	職員は県主催の身体拘束防止の研修を受講しており、事業所内で研修内容を共有し、拘束をしないケアに努めている。事業所ではヒヤリハットの報告を基に、原因解明を行っている。言葉遣いについては、利用者に対する言葉掛けがきついと思われる場合、管理者は注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連の講習や研修には参加し持ち帰り、話し合いの場を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を用い説明し納得頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付箱を設置しているが、ご家族が面会に来られた際に気軽に意見を交わす事が出来るよう近況報告を交え会話の機会を作れる様心掛けている	年に数回、家族会を開催している。その際に要望を聞いている。日頃から面会に訪れる家族は多く、職員とのコミュニケーションは密に取られている事が確認できた。事業所側からは季節ごとに家族へ、利用者の様子を伝えており、家族からの信頼が厚い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	皆の要望等を主任から報告できる様にしている。これまでも、固定ベッドを電動ベッドへ総入替え(腰痛防止)等努めている	家族の病気の際や有給休暇についての要望は聞き入れており、職員が働きやすいように配慮している。運営面に関しては、トイレの肘あてや手摺りの位置について、職員からの提案で改善した事例がある。また、管理者と職員での食事会を企画し、日頃から意見を述べやすい環境作りを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップの為の研修や講習は要望があれば参加させている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	独自の調査票を基に、家族からの聴き取り等を行い、本人へのアプローチを心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人知人の訪問は歓迎している。また、墓参り等の要望や、ドライブの際の実家への立ち寄りも家族から承諾いただければ行っている	日頃から面会に訪れる家族や友人が多い。居室に泊まる家族がいたり、絵葉書や年賀状が届く利用者もいる。利用者同士、仲の良い人と居室を訪問し合ったり、一緒に風呂に入る等の交流も行っている。行きつけの美容室がある利用者は、尊重している。ドライブの際に実家の近くを通る等、馴染みの関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活では様々な利用者間トラブルが発生しますが、食事席等や、ソファ席での孤立を防ぐ為、本人様の性格等を考慮した配置を心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向とご家族との意向が食違いが生じた場合を除き行っている	「ゆっくり、ゆったりと目を見て話す」と理念に謳われており、職員も把握している。耳の遠い利用者に対しては、耳元でゆっくりと話しかける等で配慮している。帰宅願望のある利用者には、本人を傷つけないよう対応に工夫している。また、衣服の選択は、本人の意思を尊重するよう支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前聴き取り等で努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の気付き等を、ケア会議内にて検討し合いプラン作成に努めている	本人や、家族から聞き取った要望に沿って計画を作成している。ケア会議は、職員が参加して行われている。モニタリングも、職員全員が利用者全員について検討しており、利用者の状態を共有し、支援に繋げていく姿勢が窺える。ただし、介護計画が、毎日のケアの中でどのように実行されたか確認しにくい。	現在の介護記録では、個別の計画が実行されたかどうか、わかりづらい為、PDCAサイクルを確実に実行する為に、記録の方法に工夫が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌とは別に、職員が共有できる連絡帳にて注意事項や気づき、連絡等を行いプラン変更の取組みや新たな取組みに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個別の掛りつけ医をお持ちの方には個別対応できる体制を整えている、また、緊急時の対応も訪問看護STとの連携により、スムーズな搬送や受診ができる体制を整えている	これまでのかかりつけ医を継続している。職員が受診支援を行っているが、家族が同行する利用者もいる。週1回の訪問看護師の訪問や月2回歯科往診も行われている。病状に変化があった場合、すぐに家族に連絡しており、緊急時に慌てないよう利用者各々の情報をまとめたボックスを準備している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護STからの週一回の訪問時に相談や助言を共有できている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	症状経過等の連絡は行っている。受診の際は病室へ行き、コミュニケーションを図り、担当看護職から経過状況を聞いている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針を作成し、ご家族様方へお渡ししている。訪問看護スタッフも週一度の訪問にて共有できている。	事業所は「利用者の重度化対策・終末期ケア対応指針」を訪問看護ステーションとの契約時に作成している。家族へは利用開始時に説明を行っている。事業所は看取り介護を行うこととしており、家族の協力なしでは行えないため、利用者の状況に応じて話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	火災訓練時にダミー人形を用いて、AEDや心肺蘇生法の訓練を取入れて活かしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年二回の訓練を実施している。放火や漏電火災を除くと、火元は限られてくる為、台所に投込み式消火ボトル、天ぶら油消火すてックを消火器とは別に設置	事業所は火を出さないことを第一に、毎週土曜夜勤者が事業所独自の消防チェックを行っている。年2回の消防訓練では夜間想定や通報、消火、避難誘導、心肺蘇生等実施しており、実際の炎に対して消火器や消火固体での消火を体験している。台風への備えとして、地主に依頼し裏山の太木伐採を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている		利用者の呼称は、家族に確認をとり本人に合わせ、親しみを込めて声掛けしている。個人情報に関する書類は、所定の場所に保管している。ただし、訪問時に、夜間使用のポータブルトイレが未使用時も居室にそのまま置いてあり、使用中のトイレのカーテンが開いているなど、尊厳や羞恥心への配慮が必要である。	トイレに関しては、ポータブルトイレ利用やトイレ利用のいずれも、利用者の尊厳や羞恥心、プライバシーに配慮した支援について、検討工夫が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いつでも、どのスタッフにでも表せるよう日頃から会話を大事に行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限りその様に努めているが、医療機関受診や突発な受診等が多く、その中でも努力している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の移り変わり時期は家族と話し合い夏物冬物を変更、化粧液やクリーム、髪染め剤等の支援、また、月に一度ボランティアさんによりエステも行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当施設にはメニュー表は存在せず、明日は何にしましょうか？など会話の中から翌日の献立を決めている。また、簡単な下ごしらえ等は拒否が無い場合は行ってもらっている	献立は敢えて作らず、利用者の希望を聞いて作っており、家族的な雰囲気大切にしている事が確認できる。事業所の菜園で収穫した野菜をメニューに取り入れている。また、バイキングの日や誕生日会、クリスマス等の行事食も提供しており、利用者が食事を楽しむ事ができるよう支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を五段階にわけ、把握している。また、定期的な補水も行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	2週に一度歯科医師の訪問を受けている。又、歯科医師からの助言を活かした支援を行えている		

グループホーム夕陽の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	止むを得ない場合を除き、オムツ外しを促進している。	以前より、オムツを外す事に力を入れている。排泄チェック表を基に、利用者のリズムを把握し、早めの誘導を心掛けている。パッドやリハビリパンツ、夜間のみポータブルトイレを使用するなど細かい対応である。安易にオムツを使わない支援が、利用者の排泄への自立に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に食物繊維を多く取入れたり、レク内に運動を取入れたりしているが拒否が多く中々スムーズには行っていない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	拒否があった場合には、時間をずらしアプローチしたりしている	基本的に週3回の入浴日を設定しており、利用者の希望があれば、柔軟に対応している。浴室の入口には、レトロな看板を設置し、雰囲気作りに努めている。また入浴剤を使って、入浴を楽しむ工夫も行っている。入浴拒否の場合は、無理をせず声掛けの工夫や時間をずらす等にて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度や、豆球には気を配っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	独自の服薬チェック票等で誤薬が無いような工夫を行っている。症状の変化等も、小さい単位からの特変記録表を用いて行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力(裁縫・調理・園芸)を充分に発揮して頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	要望があった時は出掛けている	日常的に外出の頻度は多い。通常は、事業所の周りを散歩したり、天気の良い日は日光浴を兼ねた外出を行っている。限られた職員数ではあるものの、機会を見て車椅子の利用者も含め、近郊へのドライブや花見、ぶどう狩り、サーカス見学、足湯へと出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行なえている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば行っているが、家族からの電話の際も時折会話して頂けるようにしている。また、年賀状や、手紙の返信等も行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節感満載の手作りカレンダー、玄関にも季節の花やPOP、浴室ドアには入浴気分を出して頂けるようPOPなどを設置。	施設は高台にある為、リビングからの景色は良好である。利用者はソファに寛いだり、利用者同士で会話したり、歌を歌ったりして寛いでいる。熱帯魚へのエサやりを楽しみにしている利用者もいる。キッチンから食事を準備する音や匂いが家庭的である。リビングに床暖房を完備し、加湿器を設置し、感染症予防に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置いてあり、団欒の場となっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居面談の際に、家具・寝具などは使い慣れた物を使用して頂けるよう説明している。また、仏壇等も可能である	使い慣れた物の持ち込みは自由であり、各居室は、本人の好きな写真や手芸品等を思い思いに設えている。毎朝、職員が清掃及び換気を行っている。利用者の動線に合わせ、室内に手摺りを付けるなど本人が生活しやすいよう工夫しており、居心地のいい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室・居室には目印を付けている。		